

- 問1 奈良時代の租税制度の一つである「調」について、その負担の仕組みを正しく説明しているものはどれですか。 (2019年 大分県公立入試 類似)
1. 口分田の収穫から約3%の稲を納めるもので、主に地方の役所の倉庫に保管された。
 2. 都での労役の代わりに布を納めるもので、都までの運搬費用は国が負担した。
 3. 地方の特産品を都まで直接運んで納めるもので、その運搬にかかる費用や食料は民衆の自己負担であった。
 4. 年間で60日を限度として、地方の国司の命令により土木工事などの労働に従事した。
- 問2 奈良時代に編纂された書物の説明として、内容とその目的の組み合わせが最も適切なものはどれですか。 (2021年 秋田県公立入試 類似)
1. 古事記は、神話や国の成り立ちを記すことで、天皇による統治の由来を明らかにしようとした。
 2. 風土記は、全国の優れた和歌を収集することで、貴族の教養を高めることを目的とした。
 3. 日本書紀は、各地方の産物や土地の様子を詳しく調査し、税の徴収を効率化するために作られた。
 4. 万葉集は、仏教の教えを広めるために、聖武天皇の時代に国ごとに作成が命じられた。
- 問3 古代の日本における地方統治の仕組みについて、日本海側の交通や軍事上の拠点として重要視された佐渡島に置かれた行政単位に関する説明として、正しいものを選びなさい。 (2018年 静岡公立入試 類似)
1. 五畿七道の北陸道に属する令制国として、島全体が「佐渡国」と定められた。
 2. 山陰道に属する令制国として、隠岐諸島とともに一つの行政単位を構成した。
 3. 西海道の一部として、九州地方の防衛を担う拠点の一つに位置づけられた。
 4. 東山道に属し、内陸部の信濃国や上野国と密接な行政関係を持っていた。
- 問4 当時の税制度において、農民の負担が極めて重かったとされる理由の一つに、都まで税を運ぶ際の手続きがあります。「調」や「庸」といった税を都まで運ぶ負担について、正しく説明しているものはどれですか。 (2020年 山口公立入試 類似)
1. 運脚と呼ばれ、農民自らが都まで運び、その道中の食料も自前で用意しなければならなかった。
 2. 地頭が徴収を代行し、幕府が指定した運送業者がまとめて都へ輸送した。
 3. 各国の国司が責任を持って輸送し、農民は自分の住む郡の役所に納めれば完了した。
 4. 蒸気船や鉄道などの交通インフラが未発達だったため、基本的には河川を用いた水運のみが利用された。
- 問5 古代の租税制度について述べた次の説明のうち、全国各地から平城京に集められた「調」の説明として正しいものはどれか。 (2021年 奈良公立入試 類似)
1. 口分田の面積に応じて、収穫した稲の一部を地方の役所に納める。
 2. 都での労働の代わりに、布を中央政府に納める。
 3. 九州北部の警備のために、防人として兵役につく。
 4. 各地の絹や魚といった特産品を、納税者が都まで運んで納める。
- 問6 古代において、東アジアと西アジアやインドを結び、物資や文化の交流を可能にした交易路がある。東大寺正倉院に収められた宝物にも、この交易路を通じてもたらされた西方の影響が見られるが、この道の名称として最も適切なものはどれか。 (2025年 青森県公立入試 類似)
1. 東海道
 2. シルクロード (絹の道)
 3. 中山道
 4. コロンブスの航路
- 問7 律令制度のもとで、都へ納めるべき「調」の品目として、各地の地理的条件に合わせて選ばれたものの組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2018年 香川公立入試 類似)
1. 海に近い国々からの塩や魚の干物、山間部からの絹や糸
 2. 各地の口分田から収穫された大量の稲や粟
 3. 都での土木工事や警備に従事するための労働力
 4. 外国との交易で得られた香料や貴金属
- 問8 古代の庶民の生活や食生活について記された資料において、当時の農民が置かれていた状況を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2021年 大分県公立入試 類似)
1. 戸籍に基づき国から口分田を与えられる一方で、死後はその土地を国に返す義務があり、重い税負担の中で質素な食生活を送っていた。
 2. 全国の土地の広さや良し悪しを調査され、収穫量を石高という単位で定められることで、年貢を納める対象として厳しく管理されていた。
 3. 政府から土地の所有権を認められる代わりに、地価の3%を現金で納めることになり、不作の際にも納税の負担が変わらず苦しんでいた。
 4. 地主から土地を強制的に買い上げた政府によって農地が安く売り渡され、自作農として自分の土地で自由に作物を作れるようになった。
- 問9 聖武天皇が東大寺の建立や大仏の造立を命じた奈良時代の中頃、深刻な土地不足を解消するために743年に出された法律があります。新しく開墾した土地を永久に自分のものにするのを認めた、この法律の名称を答えなさい。 (2018年 和歌山公立入試 類似)
1. 班田収授法
 2. 三世一身の法
 3. 墾田永年私財法
 4. 公事方御定書
- 問10 日本の仏教史において、奈良時代に行われた「国分寺・国分尼寺の建立」よりも後の時代に起こった出来事として適切なものはどれですか。 (2018年 香川公立入試 類似)
1. 加賀の一向一揆に代表されるように、浄土真宗の門徒が守護大名を倒して自治を行った
 2. 聖徳太子が十七条の憲法を制定し、その中で仏教を敬うよう示した
 3. 仏教が伝来した直後、崇仏派の蘇我氏と廃仏派の物部氏が激しく対立した
 4. 平城京内に大規模な寺院が立ち並び、僧侶が政治に深く関与するようになった
- 問11 七百年に平城京へ都が移ってから七百年九十四年に平安京へ都が移るまでの期間、当時の天皇が「鎮護国家の思想」に基づいて実施した政策として、正しいものはどれですか。 (2023年 高知公立入試 類似)
1. 国ごとに国分寺・国分尼寺を建立させ、都に大仏を造立した
 2. キリスト教の布教を禁止し、寺請制度によって民衆を寺院に登録させた
 3. 貴族の権力争いを防ぐため、武士を登用して警備を強化した
 4. 全国各地に神社を建て、天照大神を祀ることで国家の統一をはかった
- 問12 律令制における税制度のうち、「調」が当時の人々に与えた影響やその仕組みについて述べたものとして正しいものはどれですか。 (2023年 岩手県公立入試 類似)
1. 口分田の面積に応じて課されたため、土地を持っていない者は免除された。
 2. 主に男子に対して課され、特産物を都へ運ぶ際の食料も自己負担であったため、生活を圧迫した。
 3. 地方の特産物を現地の役所に預けるだけで完了したため、都へ行く必要はなかった。
 4. 成年女子に対してのみ課された税であり、布を織って納めることが一般的であった。
- 問13 8世紀の日本では、仏教の教えが広まる一方で、僧侶が守るべき厳格な規律が整っていないという課題がありました。この状況を改善するために、聖武天皇の招きに応じ、5度の渡航失敗や失明という苦難を乗り越えて唐から来日した高僧は誰ですか。 (2025年 神奈川県公立入試 類似)
1. 鑑真
 2. 行基
 3. 最澄
 4. 空海

答え合わせ・解説

問1	答え 3 地方の特産品を都まで直接運んで納めるもので、その運搬にかかる費用や食料は民衆の自己負担であった。	律令制下の税のうち、「租」は収穫した稲を地方の倉庫に納めるものですが、「調」や「庸」は遠く離れた都まで歩いて運搬して納める必要がありました。この運搬にかかる費用や道中の食料はすべて納税者本人が負担しなければならず、当時の民衆にとって肉体的・経済的に非常に重い負担となっていました。選択肢にある稲の徴収は「租」、労役の代わりに布は「庸」、地方での労働は「雑徭」の説明です。
問2	答え 1 古事記は、神話や国の成り立ちを記すことで、天皇による統治の由来を明らかにしようとした。	古事記は、当時の天皇が日本を治める正当性を示すために、古い伝承や神話を整理してまとめられた歴史書です。選択肢にある「地方の産物や土地の様子」を記したのは風土記であり、「和歌を収集」したのは万葉集です。それぞれの書物は、律令国家としての体制を整える中で、文化や政治的な意図を持って作成されました。
問3	答え 1 五畿七道の北陸道に属する令制国として、島全体が「佐渡国」と定められた。	佐渡国は古代の律令制下において、島全体が独立した「国」として扱われました。地理的には日本海沿岸の国々を結ぶ北陸道のルート上にあり、現在の新潟県にあたります。他の選択肢については、隠岐は山陰道、対馬などは西海道、信濃や上野は東山道に属しており、地理的・行政的な区分が異なります。
問4	答え 1 運脚と呼ばれ、農民自らが都まで運び、その道中の食料も自前で用意しなければならなかった。	「調」や「庸」は、農民の中から選ばれた「運脚（うんきゃく）」が、徒歩で都まで運ぶ規定になっていました。この道中の食料（道糧）は農民自身の負担であったため、都に着くまでに食料が尽きて行き倒れる者が続出するなど、生産物の納入以上に、その「輸送コスト」が農民にとって過酷な負担となっていました。中世の地頭による徴収や、近代の交通機関とは時代背景が異なります。
問5	答え 4 各地の絹や魚といった特産品を、納税者が都まで運んで納める。	律令制度下の「調」は、地方ごとの特産物を都に届ける義務を指します。都の役人の給与や儀式の費用、国家の資材として利用されました。選択肢にある「稲の一部を納める」のは租、「労役の代わりに布」は庸、「九州北部の警備」は防人をそれぞれ指しており、制度ごとに納める品目や場所、目的が明確に区別されていました。
問6	答え 2 シルクロード（絹の道）	奈良時代の天平文化は、遣唐使によってもたらされた唐の文化の影響を強く受けているが、当時の唐は西アジアやインドなどとの交流が盛んであった。この東西交流を支えた内陸の交易路は、中国の特産品である絹が多く運ばれたことから「シルクロード（絹の道）」と呼ばれる。正倉院には、この道を経て伝わったガラス容器や楽器などが収蔵されており、国際色豊かな特徴を示している。「東海道」は江戸時代に整備された日本の五街道の一つであり、時代や場所が異なる。
問7	答え 1 海に近い国々からの塩や魚の干物、山間部からの絹や糸	「調」はその土地の産物を納める制度であり、繊維製品（絹、糸、布など）のほか、塩、海産物、鉄、漆などの特産品が指定されていました。これらは都に送られた後、役人の給与や政府の運営費用に充てられました。稲を納めるのは「租」、労働の代わりに布を納めるのは「庸」であり、特産品を基本とする「調」とは区別されます。
問8	答え 1 戸籍に基づき国から口分田を与えられる一方で、死後はその土地を国に返す義務があり、重い税負担の中で質素な食生活を送っていた。	班田収授法によって農民には土地が与えられましたが、同時に租・庸・調や防人などの重い負担が課せられていました。当時の庶民の食事は、玄米の粥やわずかな副菜、塩などが中心の極めて質素なものであったことが、当時の記録や研究から明らかになっています。他の選択肢は、安土桃山時代の太閤検地、明治時代の地租改正、戦後の農地改革の説明です。
問9	答え 3 墾田永年私財法	人口の増加に伴って、政府が農民に与える口分田が不足したため、政府は開墾を促す必要に迫られました。当初は三世代にわたる所有を認める「三世一身の法」を出しましたが、期限が来ると土地が国に没収されるため、農民の意欲が続きませんでした。そこで、期限を設けず永久に所有できるこの法律を制定しました。
問10	答え 1 加賀の一向一揆に代表されるように、浄土真宗の門徒が守護大名を倒して自治を行った	聖武天皇による国分寺・国分尼寺の建立は8世紀（奈良時代）のことです。これに対し、加賀の一向一揆は15世紀（室町時代）の出来事であるため、時系列では後になります。聖徳太子の活動や仏教伝来に伴う勢力争いは飛鳥時代の出来事であり、平城京の寺院が政治に関与したのは奈良時代そのものの特徴です。
問1	答え 1 国ごとに国分寺・国分尼寺を建立させ、都に大仏を造立した	聖武天皇は、仏教による国家の安定を具体化するため、全国の諸国に国分寺・国分尼寺を建てることを命じました。また、その総本山的な役割を果たす東大寺を都に建設し、巨大な盧舎那仏（大仏）を造立することで、仏教の加護を受けようとした。
問1	答え 2 主に男子に対して課され、特産物を都へ運ぶ際の食料も自己負担であったため、生活を圧迫した。	調は成年男子（正丁・中男）に課せられた税です。単に産物を納めるだけでなく、遠方の都まで自分の足で運び、往復の食料も自分で用意しなければなりません。この過酷な負担から逃れるために、戸籍を偽って「女」として登録する「偽籍（ぎせき）」などの行為が広がる原因の一つとなりました。なお、土地の面積に応じて課されたのは「租」です。
問1	答え 1 3 鑑真	当時の日本には僧侶が正式な資格を得るための「戒律」を受けける仕組みが不足していました。唐の僧である鑑真は、この戒律を伝えるために日本へ渡り、東大寺に戒壇（戒律を受けける場所）を設けました。これにより、国家公認の僧侶としての質を維持する制度が確立されました。選択肢にある行基は民衆への布教や社会事業、最澄と空海は平安時代初期に新しい仏教を伝えた人物です。